

【熊本県納税貯蓄組合連合会会長賞】

私たちの未来と税金

南阿蘇村立南阿蘇中学校

三年 大橋 弓愛

私は最近の社会の授業で、少子高齢化について学びました。高齢者の割合が増え、若い世代の負担が大きくなっていることを知り、これは将来の自分にも深く関わる問題だと思います。だから今回、日本の未来と税金について、自分なりに考えてみたいと思います。

私たちの生活は、税金によって支えられています。学校の教科書や道路の整備、病院や福祉の制度など、普段は当たり前のようにあるものも、実は税金がなければ成り立ちません。普段意識することはあまりありませんが、社会にとって欠かせない大切なお金です。

しかし、日本では少子高齢化が急速に進んでいて、税金の負担が大きな問題になっていきます。今では人口の約三割が六十五歳以上で、年金や医療、介護に必要なお金はどんどん増えています。その一方で、働いて税金を納める若い人は減っています。つまり、支える人が少なくなっているのに、支えられる人は増えているのです。数字で見ると、もっと分かりやすいです。四十年前は現役世代四人で高齢者一人を支える時代でした。しかし今は二人で一人、将来は一人で一人を支える時代になると言われています。自分が大人になるころには、一人一人の負担がとてみ大さくなると考えると、不安な気持ちになります。

現役世代が支払う社会保険料は今でも年収の約十五%くらいだそうです。でも将来は二十%を超えるとも予想されています。もし給料の五分の一以上が税金や保険料に取られてしまったら、自由に使えるお金が少なくなってしまうです。そうすると生活が苦しくなって、結婚や子育てをためらう人も増えるかもしれません。そうするとさらに少子化が進んでしまい、悪循環になってしまうと思います。

この問題を解決するためには、ただ税金を上げるだけでなく、使い道を工夫することが大切だと思います。例えば、医療や介護を効率的にする新しい技術を活用したり、無駄な支出を減らしたりすることです。それに加えて、子育てや教育への支援をもっと充実させることが大切だと思います。若い世代が安心して子どもを育てられる社会になれば、将来の納税者も増えていきます。それが一番大事な解決策になるのではないのでしょうか。

私はまだ中学生で、税金を払う立場ではありません。しかし、これから社会に出て働き、大人になれば必ず関わる問題です。未来の日本を支えるのは、これから大人になる私たちであり、税金の負担も私たちにかかってくると思います。だからこそ自分には関係ないと思わずに、今から少しずつでも考えていきたいです。

少子高齢化が進む日本では、税金の負担が重くなるのは避けられないと思います。でも、その中でどうやってみんなが安心して暮らせる社会をつくっていくのが大切です。私は、一人一人が将来の課題に目を向けて、支え合う方法を考えていくことが、日本の未来を明るくする一歩になると思います。